

選者 川口孤舟

投句・選句 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 熊谷くにお 小早健介 後藤とみ子 在間千恵

佐藤ただしげ 高橋康敏 田島正己 土谷堂哉 豊田ゆたか 西澤國護 福島正明

古川百合子 古田昇 星田啓子 山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

選句のみ 伊賀山そらお、梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章

山本三恵



【互選句】 ◎は弧舟選者の選 選者欄(括弧内)の○は選者の「天」

十三点

◎遠雷や父の小言をふと思ふ 忠彦 (そ・くす・弧・○と・た・清・己・堂・國・百・亜・天・盛)

八点

亡きひとを語りて生かす生ビール とみ子 (そ・忠・た・孝・○龍・清・隆・正)

七点

涼しさや写経の墨の香ほのか 堂哉 (く・千・た・康・己・昇・天)

◎戯れに漕ぐ金婚の恋ポート 昇 (弧・そ・健・孝・○己・け・○盛)

六点

闇の夜は蛍を星へ解き放つ 孤舟 (○そ・く・と・た・孝・康)

下闇や手に乗るほどの石仏 康敏 (く・五・堂・啓・亜・天)

六道の辻に飴買ふ日の盛り 全 (く・千・啓・け・亜・三)

◎翳りなき医師の笑顔や虹二重 堂哉 (○くす・弧・孝・昇・三・盛)

五点

逆上がり繰り返す子へ夕焼かな 孤舟 (く・康・堂・ゆ・亜)

午後のお茶胡瓜サンドの塩加減 千恵 (忠・正・啓・け・亜)

◎解脱して蟬は殻のみ残しけり 昇 (弧・健・隆・百・天)

炎帝の統べをる街や痩せ鴉 啓子 (健・千・清・ゆ・三)

◎古代蓮甕に咲かせて札所守 康敏 (くす・弧・五・昇・亜)

四点

冷奴箸の先から風通る 忠彦 (五・國・け・三)

書に倦みて老鶯に聞く声優し ゆたか (○孝・己・け・三)

夏帽子かなり若さ取り戻し 國護 (忠・龍・啓・盛)

◎老教授麻の上下を着こなせり 亜也 (弧・龍・堂・天)

◎老鶯や跡取り無き家の墓仕舞 盛雄 (弧・康・ゆ・啓)

(孝・百・三)

(1)

睡蓮をつつく緋鯉の目の強さ

(四) 旱

2

夕闇の迫る葎や猫の声
開襟やループありてのレトロ感
式日の武官の脚元白き靴
サンガラス夜目遠目にも似たるかな
向日葵やプーチンだけが笑ってる
生涯を非戦に生きて浴衣掛
万緑に唯一無二の新横綱

啓子 (五)
亜也 (千)
全 (清)
全 (盛)
天牛 (正)
盛雄 (と)
全 (忠)



【句 評・短 評】

十三点句

遠雷や父の小言をふと思ふ

忠彦

弧舟選者・・・雷親父のような厳格な父だったのが大好きだった。
とみ子さん・・・今も心に響くお小言でしょうか。素敵なお父様ですね。
ただしげさん・・・地震雷火事親父を思い出す。
百合子さん・・・遠雷と父の小言、まさにぴったりですね。
亜也さん・・・向田邦子の世界。
天牛さん・・・地震・雷・火事・親父 をすぐ思い出しました。
盛雄さん・・・親の意見と茄子の花百にひとつもムダが無い。とか。

八点句

亡きひとを語りて生かす生ビール とみ子

ただしげさん・・・亡き人が話の中でよみがえる、納得。
龍平さん・・・この方は何と幸せ。

次の方も何と幸せ 〔百歳を拍手で送る葬涼し 〓朝日俳壇 7月6日〕
隆さん・・・「生かす」を具体的ににしたほうがいい。「亡きひとに吞ませてあげたや生ビール」

七点句

涼しさや写経の墨の香ほのか

堂哉

ただしげさん・・・静寂の中での写経。感じがなんとなく伝わって来ます
天牛さん・・・墨の香で一層の涼しさを感じる。

戯れに漕ぐ金婚の恋ボート

昇

弧舟選者・・・くれぐれも真剣に漕いで事故のないように。
正己さん・・・いつまでもそうあってください。ボートまで金色に輝くように目に浮かびます。
盛雄さん・・・お元気で何よりです。

六点句

闇の夜は蛍を星へ解き放つ

孤舟

くにおさん・・・「解き放つ」は「放ちけり」でいかがでしょうか。
とみ子さん・・・美しい蛍の夜ですね。
ただしげさん・・・闇夜の蛍、情景が美しい

下闇や手に乗るほどの石仏

康敏

五郎太さん・・・意外なところに小さな石仏。

亜也さん・・・中七がいい。これも仏心の表れ。

天牛さん・・・路傍の石仏は小さくかわいい。

六道の辻に飴買ふ日の盛り

康敏

くにおさん・・・六道の辻は京都の鳥辺山でしょうか。

千恵さん・・・「六道」の意味を初めて知りました。自分ほどの道を行かされるのだろうかと思案し

つつ「飴を買ふ」で現実に戻るところに可笑しみを感しました。

亜也さん・・・夕暮れどきになれば幽霊が買いに来る。

翳りなき医師の笑顔や虹二重

堂哉

弧舟選者・・・たいして深刻な病状でないことを告げられ一安心。

五点句

逆上がり繰り返す子へ夕焼かな

孤舟

くにおさん・・・一生懸命練習している子を夕焼がやさしく包んでいる。いい光景ですね。明日への

希望も感じられる。

堂哉さん・・・私も苦勞しました。人気のない運動場で黙々と頑張っているのですね。季語が良い

ですね！

ゆたかさん・・・頑張れと声をかけたくくなります。

亜也さん・・・思い出す少年だった日々は、なぜか夕暮どきと結びついている。

午後のお茶胡瓜サンドの塩加減

千恵

亜也さん・・・たしかに塩加減が肝心。

解脱して蟬は殻のみ残しけり

昇

弧舟選者・・・蟬の脱皮は解脱した結果なのだ。

隆さん・・・「鳴かぬまま空蟬だけを残しけり」でも。今年の夏も蟬は鳴かない。なにがあつたか。

百合子さん・・・蟬に解脱の意識があるかどうか分かりませんが、素直に同感しました。

天牛さん・・・蟬の解脱とは面白い。

炎帝の統べをる街や痩せ鴉

啓子

千恵さん・・・炎帝のなすがままだうにもならない今日この頃の私たち。鴉も同様に夏痩せしてしま
うのでしょうか。

ゆたかさん・・・痩せ鴉が面白いです

三恵さん・・・「炎帝」とは、まさにこの瞬間「炎暑の世界」の絶妙な擬人化。痩せ鴉は、自然の前

にはなすすべもない我々人間と見立てるべきかもしれませぬ。これも自分たちが蒔
いた種。戒めとしてガツーンと心にきました。

古代蓮甕に咲かせて札所守

康敏

弧舟選者・・・お遍路さんを迎える寺側の温かい心遣い。

五郎太さん・・・下五が効いています。久保田城址で大賀蓮をみたことがあります。

亜也さん・・・甕の中で咲いている風情に好感。

四点句

冷奴箸の先から風通る

忠彦

五郎太さん・・・「風通り」の気付き。涼しさがさらつと詠まれています。
書に倦みて老鶯に聞く声優し

ゆたか

孝さん・・・読書にあきて来た頃に優しい鶯の鳴き声が聞こえてきた。その心地よい気分が理解できさる。

夏帽子かなり若さ取り戻し

國護

盛雄さん・・・猛暑続きのこの夏。せめてお気に入りの帽子で若さを取り戻す。心意気よし。

老教授麻の上下を着こなせり

亜也

弧舟選者・・・麻服は大正時代の遺物となったようだ。

龍平さん・・・教授のご専門は何？ “蓮如の生活・酷暑の処し方、とか 想像してしまいましたが。

堂哉さん・・・誠に僭越ですが、下五の最終講では如何でしょうか？ 懐かしい景色が浮かんで来ました。

天牛さん・・・麻の上下が効いている。今どきなかなかありません。

老鶯や跡取り無き家の墓仕舞

盛雄

弧舟選者・・・家系を守るのが難しい時代になってきた。

三点句

「役満」と友の雄叫び昼寝覚

堂哉

盛雄さん・・・昭和の、麻雀ブーム。懐かしい話です。

甲虫（かぶとむし）興味なき孫中学生

天牛

健介さん・・・やや拍子抜けながら、成長に驚き喜んでいます。

隆さん・・・いまの子供たちは、甲虫よりスマホ、パソコンでしょうか。虫愛でる人は大幅減少。
「甲虫見向きもせずに孫は過ぐ」としたい。

ため息を少し漏らして水中花

昇

弧舟選者・・・水中花を水に浸すと多くの泡が生じる。

五郎太さん・・・色々と想像を促しますね。やはり女性の句？

喉元を煩惱過ぐる生ビール

昇

百合子さん・・・あの喉越しの一時の爽快感に乾杯！

二点句

日傘さす女性の姿皆似合う

忠彦

隆さん・・・日傘は女の小道具。浮世絵からも女性の印象を受け取ると坂東玉三郎。

「日傘さす女に男は一目惚れ」でも。

天牛さん・・・夜目遠目傘のうち、を思います。

先代も先々代も海鞘であり

孤舟

百合子さん・・・なぜ海鞘なのか、海鞘がいいなと思いました。

亜也さん・・・当然に自分も？

裏小路昏れて新内流しかな

孤舟

堂哉さん・・・実景でしょうか？螢池でも近くの酒屋のおばあさんの三味線の音が聞こえていました

反り身にて写す山笠旅の朝

五郎太

千恵さん・・・博多祇園祭りと知りました。大きな山車を撮るには角度によつては反り身になるし

かないですね。懸命さに可笑しみが・・・

百合子さん・・・朝から繰り出して写真を撮りまくっている作者の様子が目に浮かびました。

夏の日のますます旺水みくじ

五郎太

とみ子さん・・・水みくじが、このお句を魅力的にしています。

千恵さん・・・「水みくじ」は涼し気でしゃれてますね。

洩れるまで水たつぷりと釣忍

とみ子

ただしげさん・涼しさが伝わって来そう。

堂哉さん・・・正に漏れるまでですね！息を吹き返しているようです

飯粒の残り目高にこのご時世

とみ子

初西瓜思いのほかの甘さあり

千恵

隆さん・・・尾花沢の西瓜は絶品だった。「初西瓜糖度の高き当たり年」でも。

水ナスの鮮やかな色飯進む

ただしげ

龍平さん・・・色の鮮やかさが食欲を鼓舞する

向日葵は平和な国に咲いてこそ

昇

弧舟選者・・・ひまわりはウクライナの国花。ちよつとつき過ぎか。

揚羽蝶ライムの棘の鋭さよ

啓子

弧舟選者・・・蝶は柑橘類が大好きのようなうだ。

とみ子さん・・・ライムの香りと合わせて 西洋画のような景が浮かびます。

睡蓮をつつく緋鯉の目の強さ

けい子

ゆたかさん・・・目の強さの表現いいです。

百合子さん・・・緋鯉の目の強さに着眼するなんて！

※康敏さん・・・「睡蓮」と「緋鯉」の季重なりです。

一点句

毛虫出たこれも小さな命かな

忠彦

隆さん・・・「毛虫来る」がいい。

青田風かつて伊都てふ国ありし

五郎太

とみ子さん・・・糸島が、食材が豊かなだけでなく 古い歴史があることをこのお句から知りました。

母好む緩きはつたい練つてをり

とみ子

正明さん・・・ハッタイ粉を練る感触と麦の薫り 懐かしい昔です。

風鈴でお客出迎え伊香保かな

ただしげ

ゆたかさん・・・風鈴が夏らしくていいです。

青楓出湯の瀬戸の音高し

ゆたか

五郎太さん・・・瀬戸にはこうした場所がたくさんあるのでしょうか。

新盆で戒名読めずスマホ出し

國護

ただしげさん・・・戒名の読み方は難しい時もあり、理解できる。

七夕や世界の平話祈念する

正明

ゆたかさん・・・同感です。

白南風に火箸ふうりん四重奏

百合子

昇さん・・・白南風に鳴る明珍の四本の火箸風鈴の涼やかな音色は心に沁みます。四重奏が良い

ですね。

※康敏さん・・・「白南風」と「火箸風鈴」の季重なりですね。

夕闇の迫る葎や猫の声

啓子

を崩され近々精密検査の予定とのことでしたが、その後は伺えておりませず、この会報をご覧いただけていると有難いが、と気になっております。

このお二方ともに卒寿を超えておられますが、この遅滞なきご提出へのご努力に頭がさがります。茲に改めて感謝を申し上げます。

句会結果は、ご覧のとおりで、忠彦さんが十三点を獲得。八点が、とみ子さんおひとり、続いて七点到堂哉さん、昇さんとお二人が続きました。今回は 幾分わかりにくい句が散見されたという感想を持たれた方も居りましたが、その分、ゆつくりと心に触れる句を見付けられ、お点が分かれたようでもあります。全ご出句数は、八十一句。うち、選外が十八句あり、点が入らずに勿体ないと思われる句も少なからずあり、皆様のお目に触れずにあることが残念です。

二、 弧舟選者近詠

前略と草々の間や落し文

アロハ着て風の機嫌を伺へり

恋蛭源氏平家と入り乱れ

かはほりの日暮の空を独占す

夏帯を叩き決意の定まれり

三、 「森の座」関係者近詠は、今回はお休みを頂戴いたします。

令和七年八月吉日

(了)